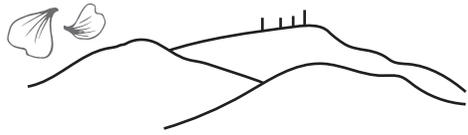


Youth Manna

2020/4/27 - 5/3



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

今日から列王記!! 2020/4/27(月)

Ⅰ列王記 1:1-14

晩年を迎えていたダビデには、世代交代という重大な責務が残されていました。そんな中、王子アドニヤは自分勝手に王になろうとします(5)。アドニヤは存命の息子たちの中で最年長者で、見た目も立派な人物だったので自信があったのかもしれませんが。アドニヤの行動には、父ダビデがアドニヤに深く関心を寄せ、愛し戒める責任を果たしてこなかったことも影響していました(6)。

アドニヤに加勢した者たちは大勢でしたが、後継となる王は神様の視点で選ばなければなりません。預言者ナタンは主の約束に立って王を助けます。

状況や人間関係に左右されず、主の選びを優先する心を持とう! あなたの選びや行動は何によって決まっているだろうか? 静まって神様の声を聞こう!

2020/4/28(火)

Ⅰ列王記 1:15-31

アドニヤの反乱により、事態は急を要するものでした。ダビデは老いて政治的な日常から遠ざかるほどに弱っていましたが、後継の王を宣言することはダビデにしか出来ない重大な責務です。預言者ナタンは事実を正確に伝えつつ、ダビデが今なすべきことを伝える必要がありました。

ここでナタンは、知恵を尽くして神様の御心になるために動きます。ナタンの態度は、自分の主君への変わることのない尊敬と、神様を恐れる心を表しています。君は相手に対して愛と尊敬を持っているかな? どんな時であっても、相手への愛と尊敬はいつでも持つべき大切なものだね。

ナタン、ダビデは神様の御心を最優先して判断しました。私たちも神様の御心が何であるかをいつも祈り求めていこう!

2020/4/29(水)

Ⅰ列王記 1:32-53

この箇所では、父親であるダビデに認めてもらえないという不満を抱えていたアドニヤと、主君であるダビデに認めてもらえないという不満を抱えていた将軍ヨアブ(IIサムエル 3,18 参照)が、王位を奪おうと同じ不満を持つ者同士で仲間になり、王位を継ごうとした。ダビデに対する敵対心を持った結びつきである。しかしこのような結びつきに本当の力はない。

アドニヤは先手を打って大勢を仲間にしたので、自分の王位が確実なものと思い込んでいた(40-41)。そのため、想定外のヨナタンの知らせに驚き恐れた。ソロモンが王位を継いだことで、自分たちが裏切り者となったからである。そして彼らの絆はあっけなく崩壊した。

色々なところで自分の持っている交わりは、何に基づいた交わりだろうか。本当に神様に喜ばれるものかを考えてみよう。

2020/4/30(木)

Ⅰ列王記 2:1-25

ソロモンは巨万の富を持つ支配者としてその名を轟かせたが、父ダビデから受け継いだ課題もまた大きかった。

ダビデは死が近づいた時、イスラエル国家を背負う者としてのソロモンに遺言を残した。何よりもまず第一に、主の道に歩むこと。そして次に、忠義を尽くした者には恵みを示し、不満分子であるヨアブ、シムイについては知恵を持って対処することを教えたのである。(1-12v)

13-25vでは、アドニヤについて書かれてある。アドニヤは先王ダビデに仕えたアビシャグを妻として求めた。これは王位に就く機会を狙うことを意味した。アドニヤは悔い改めをするどころか、更に罪を重ねようとしていたのである。

神にあって正しい選びをするものであろう!!

うるう年では今日が緑茶の日
(他の年は 5/2) 2020/5/1(金)

Ⅰ列王記 2:26-46

今日のテーマは罪の責任。僕たちは罪を犯したとき言い訳が頭に浮かんでしまう。神様に従えなかったとき誰かや状況のせいにしてしまわないかな?

今日出てきたヨアブという人は、アブネルとアマサを殺した罪の責任を問われた。実はアブネルはダビデの命を狙ったりヨアブの弟を殺したりしている。アマサはダビデ王に逆らって命を狙った将軍だ。しかもそれが失敗した後、ダビデは当時将軍だったヨアブを首にしてアマサを将軍にした。これを知ると、ヨアブに同情する気持ちも出てくる。でも人を殺したというヨアブが犯した罪の責任を誰かのせいにするには出来なかった。

罪の責任は自分自身にある。ただ1つだけ罪の責任を負うことから逃れるには、私が犯した罪を、罪のないイエス様がかわりに十字架で負うことだけだ。神様の前に自分自身の罪が赦されることの意味を軽くみることなく歩めるように祈って今日も頑張ろう!

2020/5/2(土)

Ⅰ列王記 3章

もし、神様が君の願いを一つだけ必ずかなえてくれると言ったら、君は何を願うかな? 私たちは何かを願う時、つい自分のことを中心に考えちゃうんじゃないかな?

だけど、ソロモンは正直に願って、神様の心にかなう願いごとをした! すごいことだね。ソロモンは王様という立場だったけど、それが神様から与えられたものであること、王様でいるには自分が未熟だったことを良く分かっていた。だから、願うべきことを願うことができたし、それは神様にとっても喜ばれ、祝福されたんだね!

私たちが神様に喜ばれる生き方をしていくために、今日何を願うかな? 考えてみよう!

2020/5/3(日)

Ⅰ列王記 4:1-19

ソロモンは国の重要や役職に、父ダビデの時代にも仕えていた人たちが、ダビデに仕えていた人の子どもたちを任命しました。ソロモンは自分が王となり、新しい時代に向かいながらも、これまでに神様がダビデに与えてきた恵みを大切に継承していました。神様が与えてくださった恵みへの感謝を忘れず、新しいはたらきへと進んでいこうとしていたのです。

私たちの毎日も、神様が導いてくださった恵みの積み重ねを歩んでいます。神様があなたに与えてくださった恵みを思い起こし、そのみわざを数えてみよう。

神様、あなたがこれまでに私に与えてくださった恵みを感謝します。毎日の歩みを通して、さらにあなたの恵みをよく知ることができるよう。